

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
桜井市	芝地区	平成26年3月	令和3年3月30日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	26.98 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	17.88 ha
③地区内における <u>70</u> 才以上の農業者の耕作面積の合計	8.93 ha
うち後継者未定・不明の農業者の耕作面積の合計	6.24 ha
④地区内において中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計	0 ha
(備考)	

- 注1: ③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2: ④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3: アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4: プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

当地区の中心経営体である認定農業者(法人)のオペレーター並びに、人・農地プランに位置付けられた農業経営者も高齢化してきており、その担い手の後継者も不在のため、今後農地を守り農業を支えている人材が不足していくことが大きな課題である。

注: 「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中間管理機構を介した新規就農者や農業経営規模拡大希望者、或いは、企業的農業経営会社への貸与など耕作希望者の受入れを模索するとともに、隣接する農業集落法人との連携もしくは連合体的な協調により農地の集約と経営を担っていく。

注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	A	水稲・小麦・大豆	9 ha	水稲・小麦・大豆	9 ha	
	B	水稲・野菜	0.7 ha	水稲・野菜	0.7 ha	
	C	水稲・果樹	0.43 ha	水稲・果樹	0.43 ha	
	D	水稲・野菜	0.93 ha	水稲・野菜	0.93 ha	
	E	水稲	0.3 ha	水稲	0.3 ha	
計	5経営体		11.36 ha		11.36 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。